

株主の皆様へ

FUJIFILM NEWS

Pick Up

和光純薬工業をグループに迎え入れ再生医療事業を加速

グループ内の技術を結集し 再生医療の産業化を推進



セグメントNEWS

当期も各セグメントで新製品を続々発売!



2016年度業績ハイライト

為替の影響により減収減益となるも、
為替影響を除いたオペレーションベースでは
増収増益を確保

セグメントの状況

電子映像事業、電子材料事業が伸長。
フラットパネルディスプレイ材料事業も
堅調に推移

株主の皆様へ

グループガバナンスを強化し、
さらなる飛躍へ
全社一丸となって邁進します



平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
はじめに、富士ゼロックス株式会社の海外子会社に関する不適切な会計処理及び取引に関連して、2016年度決算報告を延期しましたことについて、株主の皆様には多大なご迷惑とご心配をお掛けしましたことを深くお詫び申し上げます。

今後このようなことがないよう、富士ゼロックスの経理・監査などの経営管理機能を弊社に統合し、グループ内の業務管理プロセスを強化するとともに、経営幹部を含めたグループ内の人材交流を一層拡大することでグループガバナンスを強化し、当社グループを挙げて再発防止に取り組んで参ります。

2016年度(通期)の振り返り

当社グループは、2014年に中期経営計画「VISION2016」を策定し、重点領域である「ヘルスケア」「高機能材料」「ドキュメント」分野を中心に成長戦略を展開するとともに積極的にM&Aを行い、次の成長に向けて必要な技術などの資産を獲得して参りました。そして、2016年度からさらなる飛躍を遂げるために、これまでに蓄積した技術やノウハウ、人材など新たに獲得した資産に加え、「新規事業の利益貢献」「グローバル展開の加速」「効率的な経営」の3つを重点課題として取り組み、企業価値を向上させて参りました。

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)は、新規事業の成長を加速するために、試薬、臨床検査薬、化粧品事業で強みを持つ和光純薬工業をグループの連結子会社にする事を決定しました。特に再生医療に重要な役割を果たす「培地/サイトカイン」に高い技術を持つ同社を当社グループに迎え入れることで、一体となって再生医療事業を推進できる体制を整えました。また、各事業のグローバル展開を加速するため、これから成長が期待できる巨大な中国、ロシア市場でのビジネスの拡大に向け、中国有数の複合企業である華潤(集団)有限公司や、ロシア有数の製薬企業であるJSC R-Pharm(アールファーム)と事業提携を進

めることを合意しました。加えて、効率的な経営を加速するために、「Work Style Innovation」を展開、多様な社員一人ひとりが能力を発揮し、効率的な働き方で確実に成果を出す風土への変革を目指しました。

2016年度の業績について、為替の円高によるマイナス影響などにより売上高は2兆3,222億円となり減収に、営業利益は1,723億円と微減益になりましたが、為替影響を除くオペレーションベースでは確実な増収増益を達成しております。また、当社株主帰属当期純利益は過去最高の1,315億円となりました。なお、2016年度の1株当たり配当金は7期連続増配となる年間70円(うち期末配当35円)とさせていただきます。

今後の取り組み

2017年度(2017年4月1日～2018年3月31日)は、4月度に連結子会社となった和光純薬工業との協業を進め、「ヘルスケア」「高機能材料」分野の成長を加速します。また、ドキュメント事業の体質強化と収益改善を図るとともに、各事業の収益性を一層向上させます。これらの活動を通じて、2017年度の通期業績予想は、売上高2兆4,600億円、営業利益1,850億円の増収増益を目指します。加えて、2015年10月に制定した「コーポレートガバナンス・ガイドライン」に基づいた活動により、コーポレートガバナンスをさらに充実させ、コンプライアンス・リスクマネジメントの強化を図るとともに、事業活動を通じて社会課題の解決に真摯に取り組むことで企業の社会的責任を果たし、社会全体の発展に貢献して参ります。

株主の皆様には、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役会長・CEO

古森重隆

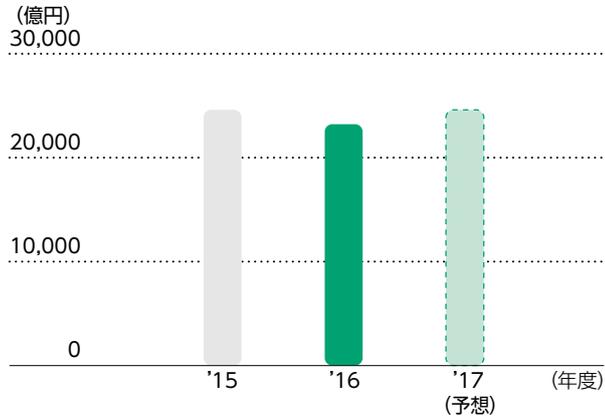
代表取締役社長・COO

助野健児

業績ハイライト

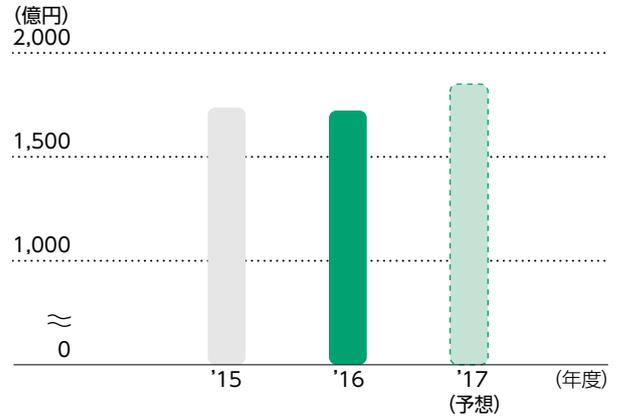
売上高

2兆 **3,222** 億円



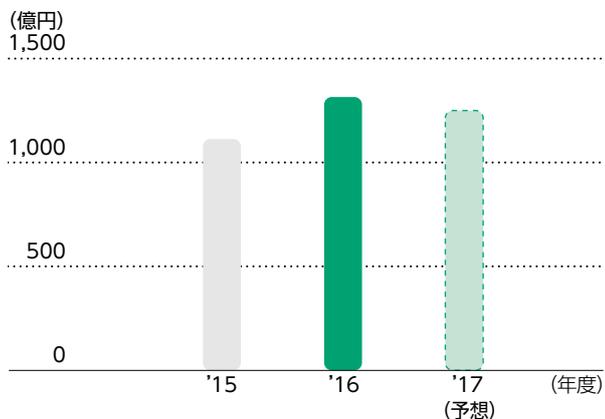
営業利益

1,723 億円



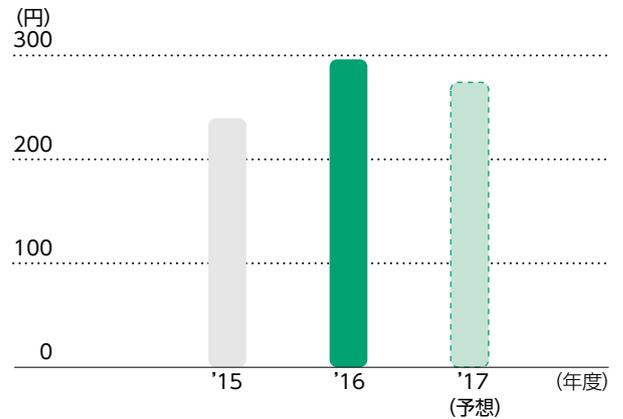
当社株主帰属当期純利益

1,315 億円



1株当たり当社株主帰属当期純利益

296円27銭



海外売上高比率

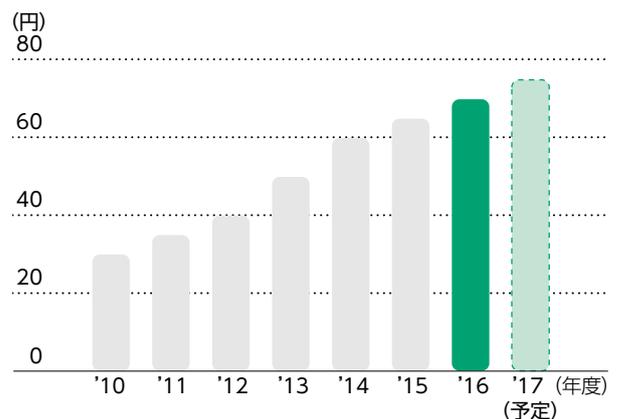
58.5%



■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アジア及びその他

年間配当金

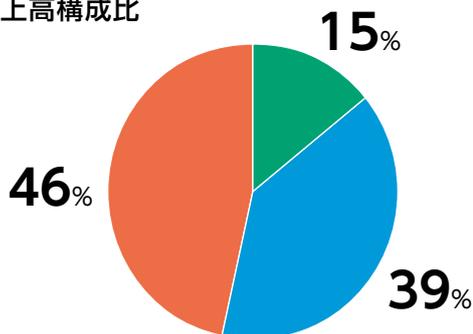
1株当たり**70**円 (7期連続増配)



セグメントの状況

■ イメージング ソリューション ■ インフォメーション ソリューション ■ ドキュメント ソリューション

売上高構成比



売上高
2兆3,222 億円

サブセグメント別売上高

フォトイメージング
2,368億円

光学・電子映像
1,050億円

ヘルスケア
3,840億円

フラットパネル
ディスプレイ材料
978億円

産業機材・電子材料
1,111億円

記録メディア
476億円

グラフィック
システム
2,558億円

その他
32億円

オフィスプロダクト
4,770億円

オフィスプリンター
1,632億円

プロダクション
サービス
1,396億円

グローバル
サービス
1,868億円

その他
1,143億円

イメージングソリューション

売上高 **3,418** 億円 営業利益 **368** 億円

業績概要

- ・フォトイメージングでは、インスタントカメラ“チェキ”、チェキフィルムなどのインスタントフォトシステムの販売が欧米を中心に好調に推移
- ・電子映像では、[FUJIFILM X-T2]を中心にミラーレスデジタルカメラ及び交換レンズが好調。さらに、2月発売の大型センサー搭載中判ミラーレス[FUJIFILM GFX 50S]の販売も好調で、売上が増加

今後の取り組み

- ・フォトイメージングは、デジタルイメージング技術を搭載した新製品「instax SQUARE SQ10」の投入などインスタントシステムを中心として、収益を拡大
- ・光学・電子映像は、成長領域であるミラーレスのハイエンド機や、4K対応放送用レンズなどの高付加価値製品に注力し収益性を向上

インフォメーションソリューション

売上高 **8,995** 億円 営業利益 **830** 億円

業績概要

- ・メディカルシステムは、成長分野である体外診断(IVD)システムの販売が好調に推移
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、[WVフィルム]やVA用フィルムなどの販売が堅調に推移し、売上が増加
- ・電子材料は先端フォトリソ周辺材料などの販売が好調に推移し、売上が増加

今後の取り組み

- ・メディカルシステムは、医療IT・内視鏡・超音波・体外診断(IVD)の分野で売上を拡大
- ・バイオCDMO事業は、開発・生産体制を強化
- ・電子材料は、先端製品の販売を加速するとともに、和光純薬工業株式会社の製品をラインアップに加え売上増を図る

ドキュメントソリューション

売上高 **10,809** 億円 営業利益 **827** 億円

業績概要

- ・オフィスプロダクトでは、新商品の各種クラウドサービスと連携するA3フルカラー複合機「ApeosPort-VI C/DocuCentre-VI C」シリーズの販売が堅調に推移
- ・グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニア地域とともにマネージド・プリント・サービスが堅調に推移

今後の取り組み

- ・[Smart Work Gateway]による業務クラウド連携サービスの強化
- ・お客様の業務改善・生産性向上に貢献できる営業体制の強化によるサービス・ソリューション事業の拡大
- ・市場特性に合致したマーケティングの強化によるアジア・中国地域における事業の強化

セグメントNEWS

大型イメージセンサー搭載の中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」新発売

有効画素数5,140万画素、中判サイズの大型イメージセンサーを搭載。超高画質を実現しながらも、ミラーレス方式を採用することで、小型軽量かつ優れた機動性を兼ね備えたデジタルカメラです。80年以上にわたり蓄積した色再現技術、世界中の写真家から長年高い評価と信頼を得てきた「フジノンレンズ」の設計思想を忠実に引き継いだ交換レンズ「GFレンズ」との組み合わせで、富士フィルム史上最高画質を実現しています。



ハイブリッドインスタントカメラ「instax SQUARE SQ10」新発売

instaxシリーズで初めてデジタルイメージング技術を搭載することで、画質が大幅に向上。プリント出力前の画像編集・加工を実現しました。また、フィルムには若い世代から写真愛好家まで幅広い層に親しまれている正方形のフォーマット「instax SQUARE Film」を採用しました。



レーザー光源搭載の内視鏡システム「LASEREO 7000システム」新発売

「LASEREO」は波長の異なる2種類のレーザーを用い、粘膜表層の血管や構造をより強調して表示することができる内視鏡システムです。新発売の「LASEREO 7000システム」はさらに観察画像の明るさを向上し、視認性を高めることで、より精細な病変の観察を支援します。



美白化粧品（医薬部外品）「アスタリフト ホワイト ブライトローション」新発売

透明感にあふれ、輝きに満ちた美白肌へと導く美白有効成分「アルブチン」に加え、独自の美容成分「ナノAMA」とくすみをケアする「フェルラ酸」を組み合わせた複合成分「ナノAMA+」を新たに配合。くすみをケアし、輝きとハリに満ちた透明感のある肌へと導きます。



機能性表示食品「飲むアスタキサンチン すっとねリッチ クロセチンプラス」新発売

肌の潤いを守る「アスタキサンチン」に加え、夜中に目覚める回数を減らし、朝までぐっすり眠れる健康な睡眠をサポートする「クチナシ由来クロセチン」を配合。この他にも、セサミンや亜鉛など、普段の食事では摂取しにくい複数の成分も手軽に摂取できます。



Pick Up

和光純薬工業をグループに迎え入れ再生医療事業を加速

グループ内の技術を結集し再生医療の産業化を推進

富士フィルムは、長年培ってきた写真フィルムの技術を活かし、新しい事業の創出を積極的に行っています。そのひとつが、今まで有効な治療法がなかった約30,000種にのぼる疾患に治療の道を拓き、世界中から期待を寄せられている再生医療です。和光純薬工業株式会社の連結子会社化により、再生医療事業のさらなる加速に挑戦する当社の活動をご紹介します。



いまだ有効な治療法が
見つかっていない疾患の
医療ニーズに応える

再生医療とは？

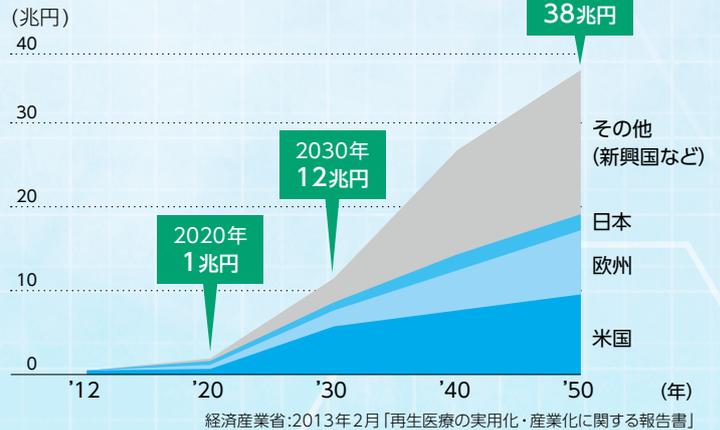
損傷を受けた生体機能を修復させる新しい医療

治療法が見つからない病気を治す

再生医療とは、体の外部で培養した組織や臓器を用いて、病気や事故などで損傷を受けた身体の機能を回復させる医療です。これまでは人間の細胞を培養し、患部に移植するため、費用や技術などの面でさまざまな課題がありました。しかし、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学の山中伸弥教授が人間のあらゆる細胞になり得るiPS細胞の作製に成功し、再生医療の実現化が大きく前進したと言われています。これに伴い再生医療の市場は、国内外で大きな拡大が見込まれ、高い成長性が期待されています。

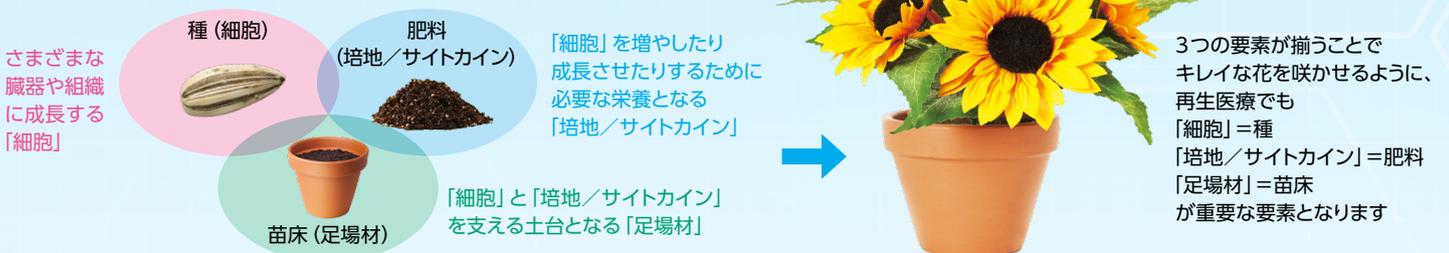


再生医療の将来市場規模予測 (世界)



再生医療に必要な3つの要素

再生医療には、「細胞」「培地/サイトカイン」「足場材」の3つの重要な要素があります。これらの関係を花の育て方を例に置き換えて表現したのが下の図です。



富士フィルムの強みは？

再生医療に活かせる技術をグループ内に保有

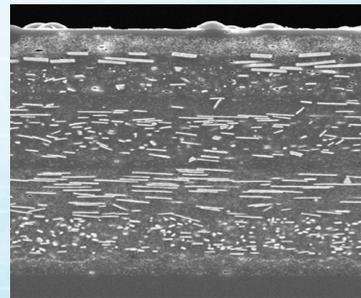
再生医療に活かせる当社の技術例

当社が写真フィルムの開発・製造で培った多くの技術が、再生医療に活かされています。写真フィルムの主要構成要素であるコラーゲンは、ヒトの生体組織の主要成分でもあるため、「足場材」の素材として高い親和性を持っています。当社はヒトのコラーゲンをもとに設計した「リコンビナントペプチド」を開発し、2014年から販売しています。

また、再生医療には、約20マイクロメートル(μm)の微細な細胞を一定の品質で生産する技術が求められます。これにも写真フィルムの製造で培った、微細な粒子をコントロールする技術(ナノテクノロジー)の応用が可能です。

再生医療に活かせるナノテクノロジー

発色剤など100種類もの薬品を並べ、微細な領域で化学反応を制御し、一定の条件で生産される写真フィルムの断面図



20 μm

写真フィルムの感光層は、髪の毛一本の太さの1/5の薄さ

再生医療に有用な技術を持つ会社を連結子会社化

良質な「足場材」を持つ当社は、再生医療事業を加速するために、M&Aを通じて体制を強化しています。

2014年に日本で初めて自家培養表皮「ジェイス」や自家培養軟骨「ジャック」の2種類の再生医療等製品(右図の製品)を上市した株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング(J-TEC)を、2015年にiPS細胞の開発・製造リーディングカンパニーの米国セルラー・ダイナミクス・インターナショナル(CDI)を連結子会社化し、「細胞」領域での開発・製造・販売力を高めました。

そして今回、「培地/サイトカイン」に関して高い技術を持つ総合試薬メーカーの和光純薬工業株式会社をグループに迎え入れ、再生医療にとって重要な3つの要素である「細胞」「培地/サイトカイン」「足場材」を全てグループ内に保有することができました。今後はグループシナジーを最大限に発揮し、開発をさらに加速させることに挑戦していきます。

J-TECの製品

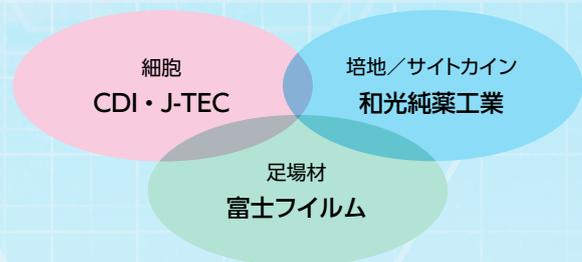


©J-TEC



©J-TEC

3つの要素全てを自社グループ内に保有



再生医療を“普通”の医療に

再生医療はとても多くの可能性を持った新しい医療です。しかし、これを広く普及させるためには、たくさんの課題があると言わざるを得ません。安全性の確保はもちろんのこと、生き物である細胞をどのように医療現場で活用するか、加工・生産や流通の仕組みも必要です。

これらの壁を乗り越えていくには、企業によるイノベーションが不可欠です。これまで何度も挫けそうになりましたが、「誰かがやらなくては」という強い信念を持ち、チーム一丸となって取り組んで参りました。

「再生医療を“普通”の医療にしたい!」が私のモットーです。これを実現するため、学会や行政の方々、他の企業の皆さんと連携し、再生医療の発展に尽力していきます。

富士フィルム株式会社
再生医療事業部長

畠 賢一郎

株式に関するマイナンバー制度のご案内

2016年1月から、社会保障・税・災害対策の行政手続きにおいてマイナンバーの利用が開始されています。

株式等の税務関係手続きでもマイナンバーが必要となりますので、株主様のマイナンバーを、お取引の証券会社等へお届出ください。

2015年12月以前より証券会社とお取引をされている株主様も、2018年末までにお届出が必要となります。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用について

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出します。

【主な支払調書】

- 配当金に関する支払調書
- 単元未満株式の買取請求などの株式の譲渡取引に関する支払調書

マイナンバーのお届出に関する問い合わせ先

- 証券会社にて株式を管理されている株主様
お取引の証券会社までお問い合わせください。

- 証券会社とお取引がない株主様
下記株主名簿管理人までお問い合わせください。

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

 **0120-782-031**

(受付時間: 土・日・祝祭日を除く 9:00 ~ 17:00)

● 株主メモ

事業年度末日 3月31日

定時株主総会 6月下旬

公告掲載

当社ホームページに掲載します。

URL (アドレス) は次のとおりです。http://www.fujifilmholdings.com/
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内1丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先/電話照会先

〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

単元株式数 100株

住所変更、単元未満株式の買取・買増、配当金受取方法の指定等のお申し出先
株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の
口座管理機関である三井住友信託銀行にお申し出ください。

連結財務ハイライト

貸借対照表

単位: 百万円

科目	2016年度末	2015年度末
資産の部		
流動資産	2,034,800	1,766,248
投資及び長期債権	299,539	319,680
有形固定資産	520,614	532,601
その他の資産	678,236	693,441
資産合計	3,533,189	3,311,970
負債の部		
流動負債	680,178	606,808
固定負債	584,953	473,165
負債合計	1,265,131	1,079,973
純資産の部		
株主資本	2,043,559	2,014,826
非支配持分	224,499	217,171
純資産合計	2,268,058	2,231,997
負債・純資産合計	3,533,189	3,311,970

損益計算書

単位: 百万円

科目	2016年度	2015年度
売上高	2,322,163	2,460,383
営業利益	172,281	174,010
税金等調整前当期純利益	194,775	175,626
当社株主帰属当期純利益	131,506	111,441
研究開発費	160,232	163,027
設備投資額*	71,805	74,143
減価償却費	117,635	124,960

*ドキュメントソリューション部門等のレンタル機器を除く。

キャッシュ・フロー計算書

単位: 百万円

科目	2016年度	2015年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	288,619	228,275
投資活動によるキャッシュ・フロー	△116,439	△162,116
財務活動によるキャッシュ・フロー	111,290	△171,665
為替変動による現金及び現金同等物への影響	△8,409	△20,485
現金及び現金同等物純増加・純減少(△)	275,061	△125,991
現金及び現金同等物期首残高	600,897	726,888
現金及び現金同等物期末残高	875,958	600,897

「配当金計算書」について

配当金支払いの際、送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、「配当金領収証」にて配当金をお受け取りの株主様につきましても、配当金支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

● お知らせ

第121回定時株主総会の決議結果について

2017年6月29日開催の当社株主総会において報告及び決議された内容につきましては、当社ウェブサイト (http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/shareholders_meeting/index.html) に掲載しておりますので、ご参照ください。

● 会社概要

会社名	富士フイルムホールディングス株式会社
設立	1934年1月20日
資本金	40,363百万円 (2017年3月31日現在)
本社	東京都港区赤坂9丁目7番3号
連結従業員数	78,501名 (2017年3月31日現在)